

## 『カラーアトラス 動物発生学』 訂正とお詫び

(1枚目/全2枚)

下記の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

株式会社 緑書房

表の見方は以下のとおりです。

p. : 掲載ページ、左 : 当該ページの左段、右 : 同じく右段、  
上 : 上から数えた行数、下 : 下から数えた行数。

訂正箇所		誤	正
p.15	左下12行目	そして少なくとも思春期まで……	そして春機発動期まで……
p.21	右上16行目	この概念異議を唱えた。	この概念に異議を唱えた。
p.22	右上6行目	クロマチ構造を持つ……	クロマチン構造を生じさせる
	右上9行目	Polycomb	polycomb
p.29	左下5行目	卵母細胞 oocytes	卵母細胞 oocyte
p.39	左下2行目	精祖細胞 spermatogonia	精祖細胞 spermatogonium
	右下5行目	遺伝子 genes	遺伝子 gene
p.42	左上9行目	染色分体 chromatids	染色分体 chromatid
p.47	表4-2 1行目	原子生殖細胞	原始生殖細胞
p.53	左下5行目	type B spermatogonia	type B spermatogonium
p.60	左上5行目	卵祖細胞 oogonia および精祖細胞 spermatogonia	卵祖細胞 oogonium および精祖細胞 spermatogonium
p.63	左上4~5行目	哺乳類の <b>卵複合体</b> mammalian egg complexe	<b>哺乳類の卵複合体</b> mammalian egg complex
	右下8行目	ブタ boar	雄ブタ boar
p.64	左上2行目	ウマ stallion	種馬 stallion
p.82	図6-6 上1行目	扁平な上胚盤葉の……	扁平な下胚盤葉の……
p.85	図6-11 上1行目	管状胚はやや折れている。	管状胚はややヒダ状になっている。
p.100	左上12行目	腎板 nephrotomeres	腎板 nephrotomere
p.103	Box7-1 左上6行目	すなわちローバー層によって……	すなわちラウバー層によって……
p.110	左上19行目	動脈幹ヒダ truncoconal folds	動脈幹ヒダ truncoconal fold
p.112	左下3行目	<b>末梢神経系の神経節要素と支持構造</b> を形成し、……	<b>末梢神経系の神経節要素と支持構造</b> ganglionic elements and supporting structures of the peripheral nervous system を形成し、……
p.128	右上10行目	子ウマは一般的に……	食肉類は一般的に……
p.130	右 見出し	要約 Summmary	要約 Summary
p.140	右上2行目	中間系フィラメント	中間径フィラメント
p.163	左下3行目	内層の経堤細胞由来であると……	内層の神経堤細胞由来であると……
p.186	左上9行目	虹彩は内方の……	虹彩は内側の……
	左上11行目	および外方の……	および外側の……
p.194	右上4行目	機能的しない	機能しない
p.218	右上1行目	左右の主静脈と……	左右の後主静脈と……
	右上8行目	左右の主静脈は……	左右の前主静脈は……
p.248	右下3行目	上顎突起	上顎隆起
	右下2行目	下顎突起	下顎隆起
p.249	左上1行目	上顎突起	上顎隆起
	左上4行目, 7行目	下顎突起	下顎隆起
p.303	右上8行目	卵祖細胞 oogonia	卵祖細胞 oogonium
p.314	図16-5 上2行目	6 : 体節間動脈	6 : 節間動脈
	図16-5 上3行目	……椎骨へまたがり、椎間板の橋渡しをする。	……椎骨へまたがり、椎間円板の橋渡しをする。
	図16-5 下2行目	5 : 椎間板内の髄核	5 : 椎間円板内の髄核
	図16-5 下1行目	3 : 椎間板	3 : 椎間円板
	右下7行目	椎骨間で脊索は拡張し、椎間板の凝集した……	椎骨間で脊索は拡張し、椎間円板の凝集した……
	右下5行目	髄核は椎間板中央部の……	髄核は椎間円板中央部の……

## 『カラーアトラス 動物発生学』 訂正とお詫び

(2枚目/全2枚)

訂正箇所		誤	正
p.340	右下12行目	Shhは椎板細胞が筋細胞への転換するのを阻止している。	Shhは椎板細胞が筋細胞へ転換するのを阻止している。
p.361	表18-3 5行目	眼の色素沈着、耳プラコード……	眼の色素沈着、鼻プラコード……
p.389	右下12行目	チベットのマスティフ犬で……	チベタン・マスティフ犬で……
	右下11行目	<i>Trember</i> と呼ばれる……	<i>Trembler</i> と呼ばれる……
p.390	左下10行目	ゲルンジー牛での……	ガンシー牛での……
p.476	右下8～6行目	下顎突起 (mandibular process) ……248 下顎隆起 (mandibular prominence) ……238	下顎隆起 (mandibular process / mandibular prominence) ……238, 248
p.480	右上8～10行目	上顎突起 (maxillary process) ……248 上顎隆起 (maxillary prominence) ……238	上顎隆起 (maxillary process / maxillary prominence) ……238, 248
p.481	左下9行目	神経堤 (neural crest) ……107, 113	神経堤 (neural crest) ……107, 112
p.482	左上10行目	精祖細胞 (spermatogonia) ……39, 53	精祖細胞 (spermatogonium) ……39, 53
p.496	中下18～16行目	mandibular process (下顎突起) ……248 mandibular prominence (下顎隆起) ……238	mandibular process / mandibular prominence (下顎隆起) ……238, 248
	中下1行目～ 右上2行目	maxillary process (上顎突起) ……248 maxillary prominence (上顎隆起) ……238	maxillary process / maxillary prominence (上顎隆起) ……238, 248
p.498	左下5行目	oocyte (卵母細胞) ……15, 37, 63, 450	oocyte (卵母細胞) ……15, 29, 37, 63, 450
p.498	左下3行目	oocytes (卵母細胞) ……29	(削除)
p.501	左下10行目	spermatogonia (精祖細胞) ……39, 53	spermatogonium (精祖細胞) ……39, 53

## 監訳者による原著に対する補足と訳注

該当箇所		原著	補足と訳注
p.134	図10-1 上3～4行目	2: 神経溝の上皮。多数の有糸分裂が神経上皮で起こる。	2: 表面外胚葉が細胞分裂して神経溝を作る (訳注: 原著の説明が誤っているため変更した)。
p.212	図12-15 上3行目	4: 腕頭動脈、……	4・4': 腕頭動脈 (訳注: 4は左鎖骨下動脈と腕頭動脈が大動脈弓から独立に出ているが、4'はまず左鎖骨下動脈が腕頭動脈から分岐していて、大動脈弓から直接分岐するわけではない。すなわち、左鎖骨下動脈と大動脈弓の関係に種差があることを表す。) 、……
p.219	図12-20 下3行目	(11'、11"の説明がない)	11': 右主上静脈、11": 左主上静脈 (訳注: 原著に説明がないため補った)
p.221	図12-22 上2行目	(7'の説明がない)	7': 静脈管索 (訳注: 原著に説明がないため補った)
p.310	図16-1 上9行目	(9の説明がない)	9: 背側大動脈 (訳注: 原著に説明がないため補った)
p.324	図16-17 図内右上	細胞の壊死	細胞のアポトーシス (訳注: 原著はCell necrosis [細胞の壊死] だが、p.322右段に「関節腔がアポトーシスによる細胞死によって形成される」とあることから変更した)